

農事組合法人 大肥郷ふるさと農業振興会（日田市夜明）

【経営の概要】

経営形態	生産組織(農事組合法人)
モデルの種類	中山間地モデル
設立時期	(総会) 平成15年9月21日 (登記) 平成15年10月3日
構成戸数	99戸
労働力	基幹3名、補助7名

【経営規模(ha)】

	経営面積	水 稻	麦 類		大 豆	その他		作業受託 (水稲他)
			小麦	裸麦		野菜類	WCS	
平成19年	32.5	13.0	11	20	12	1	7.0	延べ2.0ha
平成20年	33.7	13.5	12	20	10	0.8	9.4	延べ2.5ha
平成21年	33.7	15.7	10	15	9.4	0.8	5.8	延べ2.5ha

【機械装備】

田植機6条	2台	育苗機	3基
コンバイン6条	1台	大豆麦播種機	2台
トラクター50hp	1台	溝掘機	1台
トラクター42hp	2台	代かきハロー	2台
トラクター60hp	1台	フロントローダー	1台
大豆コンバイン	1台	鎮圧ローラー	2台
乗用防除機	1台	計量機	1台
色彩選別機	1台	フレコンバック	1台
畦塗機、	1台	石拔機	1台
乗用管理機	1台	サブソイラ	1台
大豆乾燥機	1台	プラウ	1台
水稲播種機	1台	アップカットロータリー	1台

【経営の特徴】

大区画は場整備を契機とした取り組みで、日田市においては集落ぐるみの土地利用型農業生産法人の第一号として発足し、関係機関支援のもと経営安定化を図る努力を行ってきた。複数集落（17集落）の組合員とその所有農地について、法人がそのほとんどを利用権設定している多集落1農場型の集落営農である。

ブロックローテーションも含め、高性能機械の導入による効率的な作業体系や作業分散をはかるための水稲直播技術の導入等を行っている。生産する大豆は、6割以上を下部組織である地元の農産物加工所「ももは工房」でみそ加工等に使用しており、裸麦については、地元の酒造会社と焼酎原料としての契約を行う等地産地消にも積極的に取り組んでいる。また、大肥郷農業体験塾や麦踏み大会等の多彩な都市との交流事業も展開している。

【導入した新技術】

◎湛水土中直播技術(水稲条播) 7.3haで栽培

(手法)

湛水での条播で水稲(ヒノヒカリ)を直播栽培している。

(結果)

水稲作においては、育苗に係る作業時間が膨大であるが、直播により労働力配分が合理化され、負担も軽減されたため、少数のオペレーターでの大面積の水稲栽培が可能となった。

大区画ほ場は、竣工当時と比べ均平度がやや劣り、除草剤の効果が上がりにくくなっているため、雑草が年々多くなる傾向がある。21年度においては、レーザーレベラーによる均平度向上の実証圃の設置を行い、生育前半においては、除草剤の効果を高めることができた。なお、この内容については、日田集落営農組織連絡会において森山代表理事により報告が行われている。

(留意点)

直播種連年実施している水田においては、ヒエを主体とした雑草種子が土壌に大量に残っており、雑草防除が困難である。シートパイプ等による排水対策が完了した水田においては、大豆等との輪作を行うことにより水田雑草の抑制を図ることが必要である。

<レーザーレベラーでの均平度向上>

<湛水条播での直播>

◎土壌分析に基づく土づくり資材投入(麦、大豆)

(手法)

21年播種麦については、約18 haで土壌改良資材であるミネラルGを200kg/10aを散布した。21年産麦については、湿害対策のため排水溝の設置を徹底するとともに赤かび病防除の指導を行った。

大豆圃場においても土壌改良資材ミネラルGを200kg/10aを行うとともに、一部のほ場においては、地力が十分でないことを考慮した緩効性追肥の実証試験も実施した。播種については、全ほ場で畦立同時播種を行った。また、大豆ほ場においては、堆肥散布機の実演会を開催し、市内営農組合12組織が参加した。メーカーからマニアスプレッダの使用法、西部振興局担当から堆肥の使用法等について説明が行われた。

(結果)

21年産麦については、播種前半に降雨が多かったため裸麦が発芽が極端に悪く低収量であ

ったが、播種後半分（小麦）については、発芽良好で収量も多く品質も一等であった。

大豆については、発芽時に降雨が多かったにもかかわらず、発芽は良好であった。また、追肥実証圃では、他圃場に比べ2割程度増収し、240kg/10aの収量が得られた。

なお、この内容については、日田集落営農組織連絡会において森山代表理事により報告が行われている。

< 9割近い発芽状況 >

<大豆ほ場堆肥散布実演会開催>

(留意点)

堆肥散布機については、日田市の事業化もあって、市内の5組織で導入された。集落営農組織間連携を行い、更なる活用の推進を図る。

◎自脱型コンバインによる収穫

(手法)

6条刈り大型コンバインは、1haの収穫作業を4時間で行うことができる。日田市内で普通にみられる個人所有の2条刈りコンバインの10倍の作業効率のアップであり、労賃の低減に多いに役立っている。

(結果)

- ・ 水稻(ヒノヒカリ)においては効率的作業や適期収穫の指導が行われ、収量は、直播ほ場での雑草害等によりやや少なく430kg/10aであった。
- ・ 麦においては、適期収穫の指導が行われ、21年産においては、前年11月～2月で降雨が多く湿害や肥効不足のため裸麦の単収は少なかったが、小麦においては、4月～5月の好天で収量、品質とも良好であった。
- ・ 米、麦ともに色彩選別機等を使用し、小麦と米はすべて一等となった。

(留意点)

大型コンバインは、メンテナンスに専門の知識や工具が必要であり、費用がやや嵩む。

◎その他特徴的な取組

- ・ 飼料稲については、日田市のバイオマス資源化センターの廃液を液肥化したものを使用している。 無料で供給されているので肥料の低コスト化が図られている。

- ・ジャガイモ、タマネギ、ニンジン等の野菜作にも積極的に取組を進めている。
- ・温湯消毒機を使用した水稻の種子消毒については、他の営農組織（3組織）の受託を行っている。

◎主な波及活動

・日田集落営農組織連絡会(2/3)において、レーザーレベラーによるほ場均平度向上と水稻直播、大豆の畦立同時播種、追肥実証等の実績を発表した。

・米麦大豆を中心とした大規模な合理的な法人経営をしていることから、市内だけでなく県内外からも注目され、たびたび視察の受け入れを行っている。
 <日田集落営農組織連絡会で発表を行う森山代表理事>

【経営状況】

(10aあたり)

	労働時間(県平均比)	全算入生産費	所得
経営全体	14.3 hr (68%)	63,817円 (119%)	4万円
水稻	21.4 hr	106,897円	
麦	9.8 hr	59,392円	
大豆	17.6 hr	60,221円	